



ちんせきじ 枕石寺

基本データ 住所：常陸太田市上河合町 1102-1

19 日(日)のみ

公開時間	駐車場	写真撮影	スタンプ	トイレ	雨天時の 展示物変更
15 時 30 分まで	○	○	○	○	あり

※ 一部の文化財は、普段は公開していません。

枕石寺の来歴

枕石寺は真宗大谷派で、真宗二十四輩の第 15 番目の寺院です。

寺伝では、建暦 2 年（1212）のある雪の降る夕暮れ、親鸞しょうらんが性信さいぶつと西仏の 2 人の弟子を連れて布教活動をしていた折、大門村（現常陸太田市上大門町）を訪れ、日野左衛門頼秋に一夜の宿を求めたところ断われたため、石をまくらに雪の中に寝たといいます。一方、頼秋はその夜、千手観音が現れ「旅人に慈悲を」と頼秋を諭した夢を見ます。頼秋は早速親鸞たちを家に入れて非礼を詫び、教えを受けて出家し、弟子となりにゅうさいぼうどうえん入西房道円と名を改めました。

道円は大門に一字を建立し、親鸞の枕した石にちなんで寺号を「枕石寺」としたそうです。その後、枕石寺は貞永元年（1232）には内田村（現常陸太田市内田町）へ、さらに天文 9 年（1540）現在の地に移り、水戸藩第 2 代藩主徳川光圀により現在の「大門山伝燈院」の号に改められました。



入西作「雪中枕石之御真影」

枕石寺の文化財

○ こんしきんでいさんぶみょうてん紺紙金泥三部妙典 市指定文化財（昭和 42 年 8 月 31 日指定）

三部妙典とは浄土三部經といわれるもので、むりょうじゅきょう「無量寿經」上下 2 卷、かんむりょうじゅきょう「観無量寿經」1 卷、「阿弥陀經」1 卷の三部、計 4 卷から構成されます。枕石寺には、4 卷のうち、「阿弥陀經」1 卷を除く 3 卷が残されています。

「無量寿經」は浄土宗、真宗の根本經典で、上巻では阿弥陀仏が因位（仏果を得るために修行する

地位)において四十八願を建て、西方極楽を成就した因果を説き、下巻では衆生(いっさいの人類)が極楽へ往生する因果を説いています。「観無量寿經」は、釈尊が^{ま か だ こ く お う ひ ん ば さ ら}摩揭陀国王頻婆沙羅の^{さ ら い だ い け}后妃偉提希に説いた教えでもあり、「阿弥陀經」は阿弥陀の功德と極楽のことを述べた経文となっています。

○ 阿弥陀如来立像

1673年に光圀が寄進したものと伝えられています(本尊・造像は鎌倉時代と推定されます)。

○ 親鸞聖人御枕石【写真】

「大」「心」「海」の銘があります。

